

令和4年度 緑化事業実績報告書

滋賀鋳産株式会社
伊吹鋳山

令和4年度 緑化実績

緑化区域	計画面積 (㎡)		実績面積 (㎡)		工 法	備 考
		緑 化		緑 化		
上部区域		4,000		3,400	植生基材吹付工法	専門業者へ外注 昨年度実施箇所に再吹付 植生基材吹付工法で実施する 使用種子、国産のイタドリ、ススキ、チカラシバ、カゼクサ 獣害防止対策アーチブロック設置 3400㎡
下部区域 オープンシュート北面		0		0		
計		4,000		3,400		

→ 2023/8/22

緑化工法別の月次緑化面積

単位 m²

月度	下部区域緑化面積						上部区域緑化						上部+下部 合計	上部+下部 累計
	原生植物 移植	植生袋	張芝	土のう積み	植樹	吹付け 播種	下部区域 合計	下部区域 累計	原生植物 移植	吹付け 播種	張芝	上部区域 合計		
4						0	0					0		0
5						0	0					0		0
6						0	0					0		0
7						0	0					0		0
8						0	0					0		0
9						0	0					0		0
10						0	0					0		0
11						0	0					0		0
12						0	0					0		0
1						0	0					0		0
2						0	0					0		0
3						0	0			3,400		3,400		3,400
							0					0		0
合計			0	0	0	0	0			3,400	0	3,400		3,400

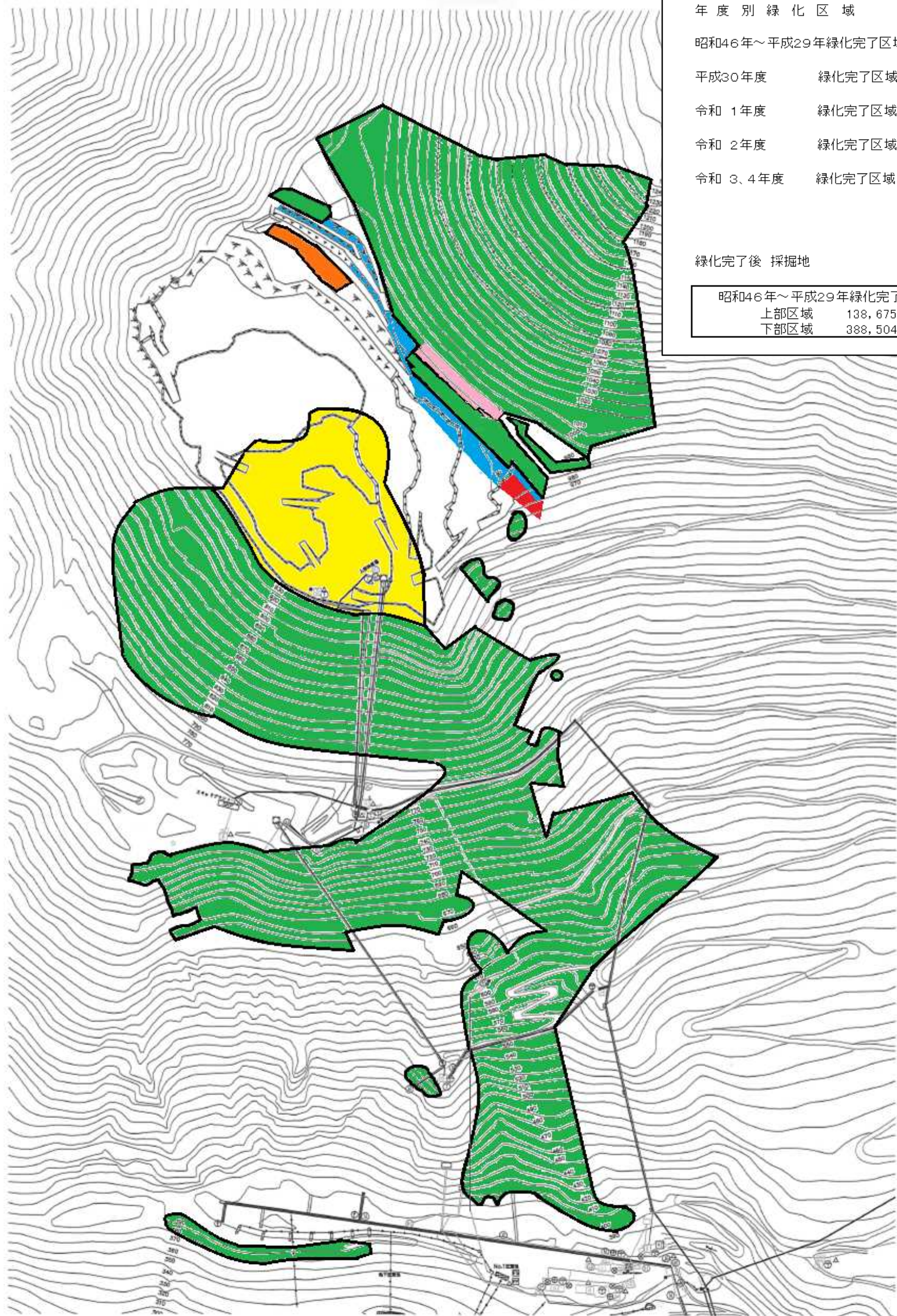
緑化工法別の年次緑化面積

単位 m²

年度	下部区域緑化面積								上部区域緑化					上部+下部 合計	上部+下部 累計
	原生植物 移植	植生袋 張	芝 土のう積み	植 樹	吹付け 播種	下部区域 合計	下部区域 累計	原生植物 移植	吹付け 播種	芝 土のう積み	上部区域 合計	上部区域 累計			
46	3,000	250	1,000	150	2,700	7,100	7,100				0	0	7,100	7,100	
47	3,600		1,500	3,150	7,350	15,600	22,700				0	0	15,600	22,700	
48	4,860		350		3,650	13,600	22,460				0	0	22,460	45,160	
49	8,740					13,400	22,140				0	0	22,140	67,300	
50	34,500						34,500				0	0	34,500	101,800	
51	27,000						27,000				0	0	27,000	128,800	
52	15,000						15,000				0	0	15,000	143,800	
53	15,500					15,200	30,700				0	0	30,700	174,500	
54	8,900					4,000	12,900	4,810			4,810	4,810	17,710	192,210	
55	12,290					600	12,890	1,790			1,790	6,600	14,680	206,890	
56	11,910						11,910	3,140			3,140	9,740	15,050	221,940	
57	8,120					8,120	220,320	3,880			3,880	13,620	12,000	233,940	
58	11,000					11,000	231,320	1,630			1,630	15,250	12,630	246,570	
59	14,160					14,160	245,480	4,170			4,170	19,420	18,330	264,900	
60	15,410					15,410	260,890	1,000			1,000	20,420	16,410	281,310	
61	10,000					10,000	270,890	13,680			13,680	34,100	23,680	304,990	
62	5,000					5,000	275,890	1,000			1,000	35,100	6,000	310,990	
63	4,760		11,300			7,070	23,130	3,090			3,090	38,190	26,220	337,210	
H/1			10,650			1,580	12,230	870			870	39,060	13,100	350,310	
2			5,080			280	5,360	1,870			1,870	40,930	7,230	357,540	
3	70		5,020	560		4,500	10,150	3,450			3,450	44,380	13,600	371,140	
4						9,520	9,520	10,480			10,480	54,860	20,000	391,140	
5						6,650	6,650	342,930	20,150		20,150	75,010	26,800	417,940	
6						7,000	7,000	349,930	8,880		8,880	83,890	15,880	433,820	
7						5,500	5,500	355,430	1,000		1,000	84,890	6,500	440,320	
8						4,500	4,500	359,930	0		0	84,890	4,500	444,820	
9						6,500	6,500	366,430	6,300		6,300	91,190	12,800	457,620	
10			4,520			4,520	370,950	4,000			4,000	95,190	8,520	466,140	
11			5,500			5,500	376,450	5,400			5,400	100,590	10,900	477,040	
12			4,100			4,100	380,550	7,900			7,900	108,490	12,000	489,040	
13			450			450	381,000	3,700			3,700	112,190	4,150	493,190	
14			1,400			1,400	382,400	2,850			2,850	115,040	4,250	497,440	
15			370			370	382,770	0			0	115,040	370	497,810	
16			850			850	383,620	0			0	115,040	850	498,660	
17			975			625	1,600	385,220	0		0	115,040	1,600	500,260	
18						1,000	1,000	386,220	0	1,500	1,500	116,540	2,500	502,760	
19						0	386,220	0	9,000		9,000	125,540	9,000	511,760	
20			835			600	1,435	387,655	795		795	126,335	2,230	513,990	

年度	下部区域緑化面積							上部区域緑化					上部+下部 合計	上部+下部 累計		
	原生植物 移植	植生袋	張	芝	土のう積み	植樹	吹付け 播種	下部区域 合計	下部区域 累計	原生植物 移植	吹付け 播種	張			芝	上部区域 合計
21							0	387,655	0				0	126,335	0	513,990
22			849				849	388,504	0				0	126,335	849	514,839
23							0	388,504	0			387	387	126,722	387	515,226
24							0	388,504	93				93	126,815	93	515,319
25							0	388,504					0	126,815	0	515,319
26							0	388,504		200			200	127,015	200	515,519
27							0	388,504		660			660	127,675	660	516,179
28							0	388,504		1,000			1,000	128,675	1,000	517,179
29							0	388,504		10,000			10,000	138,675	10,000	527,179
30							0	388,504		7,500			7,500	146,175	7,500	534,679
R/ 1							0	388,504		1,375			1,375	147,550	1,375	536,054
2							0	388,504		2,220			2,220	148,395	2,220	536,899
3							0	388,504		4,000			4,000	151,550	4,000	540,054
4							0	388,504		3,400			3,400	154,950	3,400	543,454

伊吹鉾山緑化区域



年度別緑化区域 1/5000

昭和46年～平成29年緑化完了区域	緑化完了区域	
平成30年度	緑化完了区域	
令和1年度	緑化完了区域	
令和2年度	緑化完了区域	
令和3、4年度	緑化完了区域	
緑化完了後 採掘地		

昭和46年～平成29年緑化完了面積	
上部区域	138,675m ²
下部区域	388,504m ²



上部区域緑化地
2023. 5. 23撮影



下部区域緑化地
2023. 5. 23撮影



オープンシュート緑化地

2023. 5. 23撮影





アーチブロック設置状況

2023. 5. 23撮影



報告書外(再生協議会用追加ページ)

アーチブロック設置状況2

2023. 7. 26撮影



令和5年度 緑化事業実施計画書

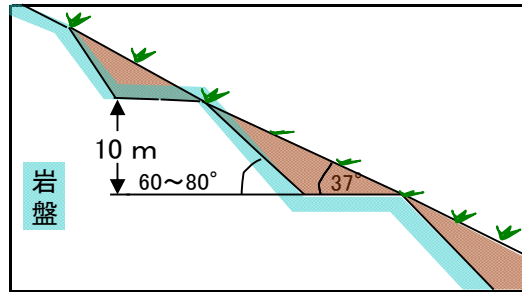
滋賀鋳産株式会社
伊吹鋳山

令和5年度 緑化計画

緑化区域	計画面積 (㎡)		完了時期	工 法	備 考
		緑 化			
上部区域		4,000	2024年3月	植生基材吹付工法 吹付け工法	<p>専門業者へ外注 植生基材吹付工法で実施する 使用種子、国産種子</p> <p>自社施工 ソイルシーダーにより吹き付け工法で実施する。 吹き付けを行う種子は、いぶき産のヨモギ種子を使用する。</p>
下部区域 オープンシュート南面		0			
計		4,000	※面積、実施時期は法面造成状況による		

令和5年度 緑化工法

緑化区域により、以下のような工法を主体として緑化を実施する。



上部区域（原生植物移植、吹き付け工法）
採掘跡地の法面をブルドーザー・ショベルで約37° に造成し、
植生基材吹付工法、又は吹付け工法にて行う

花のゆりかごプロジェクト

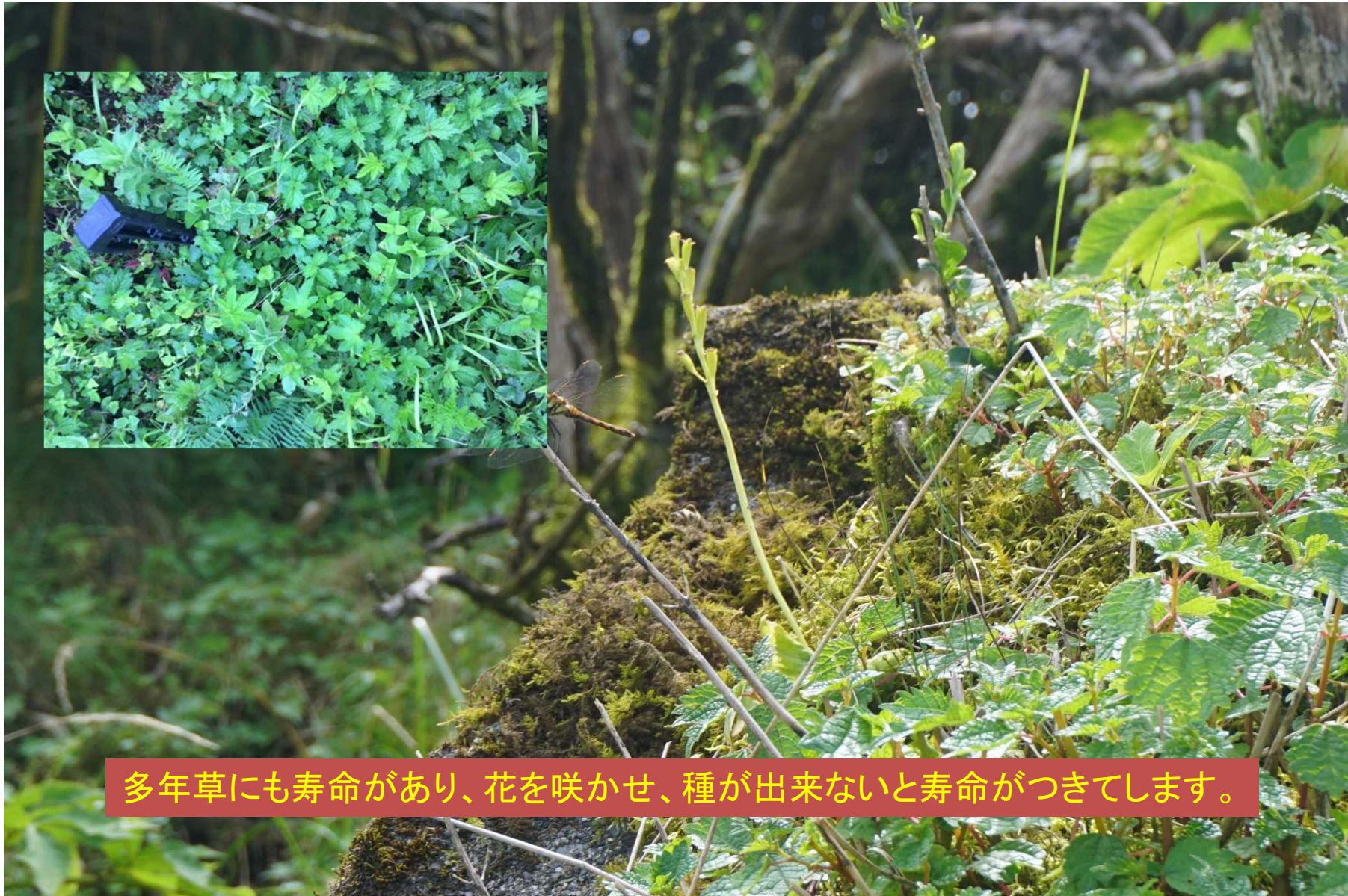


植生部会




劣化個体





多年草にも寿命があり、花を咲かせ、種が出来ないと寿命がつかけてしまいます。



伊吹山には、花の咲かない(咲かせることのできない)個体が多い

中央エリア内の、劣化したニッコウキスゲ？

多年草の寿命は？

山頂エリアで、本来の植物群落は残っているのだろうか？

劣化再生個体群落

人のたゆみない介護により再生した貴重な群落

各種保護柵設置の目的と役割

柵の種類	役割と目的	保護すべき群落・植物種	
		群落	植物種
大規模柵	シカの食害を緩和し、集中的な食害を防いだり、周辺からの侵入を防止したりする役割をはたす。また、オオイタヤメイゲツ林、チシマザサ群落などの保全にも有効な保護柵。	伊吹山高茎草地群落 チシマザサ群落 オオイタヤメイゲツ林	
小規模柵	小規模柵は、かつて伊吹山のお花畑を形成していた様々な植物群落(草地群落)などを群落単位で保全するのに適している。	シモツケソウ群落 ユウスゲ群落 ニッコウキスゲ群落 キンバイソウ群落 イブキトラノオ群落 等	
スポット柵(花のゆりかご)	シカの食害圧の高まりにより、急激に個体数を減少させている植物種を個別に保護することを目的に設置する。また、度重なる食害による植物体の劣化で開花・結実が望めない危機的な状況にある種の成長回復を目指し、開花・結実することで、繁殖の機会を増やす。		伊吹山重要種による保護 (重要植物種)

○現状把握 山頂エリア、3合目の調査

NO	年	月日	調査場所	調査ルート	備考
1	2022年	6月29日	伊吹山山頂エリア	ドライブウェイから	
2	2022年	7月24日	伊吹山山頂エリア	ドライブウェイから	
3	2022年	8月26日	伊吹山山頂エリア	ドライブウェイから	
4	2022年	9月25日	3合目	上野から登山道	山麓から3合目調査
5	2022年	10月15日	3合目	上野から登山道	山麓から3合目調査
6	2023年	4月5日	3合目	上野から登山道	山麓から3合目調査
7	2023年	4月9日	3合目	林道	ユウスゲの会調査
8	2023年	4月10日	3合目	林道?	3合目調査
9	2023年	4月10日	伊吹山山頂エリア	ドライブウェイから	
10	2023年	4月16日	伊吹山山頂エリア	ドライブウェイから	
11	2023年	4月19日	伊吹山山頂エリア	ドライブウェイから	
12	2023年	4月20日	3合目	上野から登山道	山麓から3合目調査
13	2023年	5月17日	伊吹山山頂エリア	ドライブウェイから	
14	2023年	5月21日	3合目	林道	ユウスゲの会調査
15	2023年	5月22日	伊吹山山頂エリア	ドライブウェイから	
16	2023年	5月31日	伊吹山山頂エリア	ドライブウェイから	もりびとの調査
17	2023年	6月7日	伊吹山山頂エリア	ドライブウェイから	森林帯調査
18	2023年	6月14日	伊吹山		雨のため記録なし
19	2023年	6月24日	伊吹山山頂エリア	ドライブウェイから	
20	2023年	6月25日	3合目	林道	ユウスゲの会調査
21	2023年	7月2日	伊吹山山頂エリア	ドライブウェイから	
22	2023年	7月7日	伊吹山山頂エリア	ドライブウェイから	
23	2023年	7月28日	伊吹山山頂エリア	ドライブウェイから	

調査

実態を知る

何をまもるか

分析

- 伊吹山地に自生・記録されている植物の中から220種を選定し、リストを作成。作成したリストをもとに、現況分析を行い、6つのランクに分ける。39種の「伊吹山重要植物種」を選定する。(配布資料)

どうまもるか

保全

- スポット柵設置のための現地確認会を行い、その後、柵の設置を行う。

- ・花の咲かないヒメイズイの劣化個体
- ・伊吹山が分布の西南限
※伊吹山より西には分布しない



課題・問題点

- 自生情報の偏り
エリア全域で情報を得る必要がある(線から面へ)
調査体制の充実をはかる
※調査があつて初めて保全が始まる
- 箱の設置に適さない場所での保護柵の検討
多様な保全方法の検討
- 強風、積雪等様々な気象条件への対応
軽量化、強靱化
※テントのフレームの利用等
- 保護できる個体数
あくまでも緊急的保護
※小規模柵の増設と充実重要
- 花が咲くまでの長期保護になるかもしれない。
長期的な管理体制
※常駐の専門家による保護体制
- 盗掘への対応
※道沿いの個体より、エリア内の個体を優先
- 啓発活動の充実

NO	種名	環境省RD	滋賀県RD	岐阜県RD	分布限界、自生環境、周辺地域の状況等	伊吹山山頂エリア・3合目の状況	予想個体数	保護の優先度
1	アオヤギソウ		希少		山頂エリア、3合目に自生。	保護柵内に自生するが、柵外では不明。	数株程度	高
2	アズマレイジンソウ(イブクレイジンソウ)	準絶滅危惧	絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	アズマレイジンソウのシノニム。	保護柵内及び保護柵外での自生は限定的。植物体の劣化が著しい。	数株程度	高
3	イナバアザミ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危機増大種	絶滅危惧Ⅰ類	県内の自生地は限定的。弥高尾根に自生。	伊吹山地での自生は限定的。弥高尾根に自生するとされる。	1~数株	高(小規模柵が望ましい)
4	イブキコゴメグサ(狭義)	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類	伊吹山がType locality。	現在自生が確実なのはドライブウエイ沿い。	数十株	高(小規模柵が望ましい)
5	イブキボウフウ		希少	準絶滅危惧	現在伊吹山のみ自生。	保護柵外での自生は限定的。	数株~十数株	高
6	イワツクバネウツギ		分布上重要		県内での分布が限定的。鈴鹿山脈にも自生。	3合目での自生以外は不明。	1株	中
7	イワハタザオ		分布上重要		県内唯一の自生地。	駐車場周辺など、自生は限定的。	数株~以上	高
8	エンシュウツリフネ		掲載なし	準絶滅危惧	岐阜県美濃地方に自生。	滋賀県側での自生はない。	?	高
9	オオダイトウヒレン		絶滅危惧		依存植物で隔離分布。京都府は絶滅。	山頂エリアの自生情報あり。	1株	高
10	オオバクサフジ		希少		自生地は限定的。	山麓での自生以外は不明。	数株	高
11	オニシモツケ		分布上重要		金糞岳にも自生。	ドライブウエイ沿いに自生。	数株程度	高
12	カキノハグサ		絶滅危機増大		県内では比叡山にも自生するが、いずれも危機的状況。	ドライブウエイ沿いのものは、ドライブウエイ会社にて保護。	数株程度	高(保全対策されている)
13	ギョウジャンニンニク		絶滅危惧		県内での自生地は限定的。	数年前まで北尾根に自生していたが、現状不明。県内唯一の自生地。	十数株あった	高(小規模柵が望ましい)
14	クモキリソウ		その他重要		県内での自生地は比較的多い。	登山道沿いやドライブウエイ沿いに自生。	十数株以上	中
15	コウグイスカグラ		分布上重要		山頂エリアに自生するがシカの障害をうける。	山頂エリアに自生するが、シカの食害をうけ株が衰退。	数株	高(小規模柵が望ましい)
16	コヒナリンドウ	絶滅危惧ⅠB類	2020年版の選定なし		県境周辺、山頂エリアに自生。近年の確認。	自生は確実だが、個体数等は不明。	数株程度	高
17	ザリコミ		分布上重要		霊仙山にも自生。	山頂エリアに自生するが、個体数少なく、シカの食害目立つ。	数株	高(小規模柵が望ましい)
18	スズサイコ		希少		県内での生育環境はいずれも悪化し、自生地が減少。	現在、3合目の保護柵内のみ自生。	数株	高
19	スズムシソウ類(スズムシソウ、セイタカスズムシソウ)		要注目	絶滅危惧Ⅰ類	県内の自生地は限定的。	山頂エリアに自生するが、既知の自生地以外での状況は不明。	十数株程度	高
20	ダイセンヒョウタンボク		分布上重要		伊吹山以外の自生地の現況不明。	山頂エリアの個体数は少なく、シカの食害が見られる。	1~数株	高(小規模柵が望ましい)
21	タキミチャルメルソウ		その他重要	絶滅危惧Ⅱ類	鈴鹿山脈、岐阜県美濃地方に自生。	伊吹山の滋賀県側での確認はない。	?	高
22	タマガワホトギス		希少種		湖西、湖北に自生地がある。比良山地に自生。	森林帯にシカの食害を免れた個体が残存。	数株~十数株	高
23	チチブリンドウ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ理	ドライブウエイ沿いなどに自生。年により生育状況が変動	山頂自生地では、踏みつけ等の影響を受けやすい状況がある。	十数株~以上	高
24	チョウセンキンミズヒキ	絶滅危惧Ⅱ類	希少		伊吹山地、鈴鹿山地に自生。	山頂付近では、劣化した個体が多く、確実な同定ができていない。	数株程度	高
25	テバコワラビ	絶滅危惧Ⅱ類	希少		県内唯一の自生地。	山頂の保護柵内に自生。	数株~十数株	高(小規模柵が望ましい)
26	ドウモンワニグテソウ		希少		1990年に確認。伊吹山が南限。	かつて伊吹鉱山草地に自生。現状不明。	不明	高
27	ニッコウキスゲ(ゼンテイカ)		絶滅危機増大		鈴鹿山脈、丹波高地などに自生するが、いずれの地域も環境悪化。	山頂エリアでは食害を受け花の咲かない個体となる。保護柵内に自生	数株~十数株	高
28	ノビネチドリ		絶滅危惧	準絶滅危惧	県内の自生地は限定的。	もともと個体数は多くないが、近年個体数が激減。	数株~十数株	高
29	ヒナノキンチャク	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類	県内の自生地は限定的。	自生地では表土流出などの影響がある。	数株程度	高
30	ヒメアザミ(イブキアザミ、ヒメヤマアザミ)		分布上重要		東限に近い分布。	保護柵内では増加傾向。柵以外での自生は不明。	数十株~	中(小規模柵が望ましい)
31	ヒメイズイ		絶滅危機増大	絶滅危惧Ⅰ類	県内で自生が確実なのは伊吹山のみ。	保護柵内に自生するが、柵外では極めて少ない	数株~十数株	高
32	ヒメヒゴタイ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧		多賀町にも自生。	最近まで確認されているが、現状不明。	数株程度	高
33	ヒロハノアマナ		絶滅危機増大		鈴鹿山脈にも自生。	山頂エリアにアマナと混生。個体数は少ない。	数十株程度	高
34	ホソバノツルリンドウ		希少	絶滅危惧Ⅰ類	伊吹山のみ自生。	駐車場周辺に自生するが、自生地は限定的。	数株程度	高
35	マツムシソウ		希少	準絶滅危惧	県内の他の自生地でも現状は不明。	保護柵内に自生するが、本来の自生かは不明。	1株	高
36	マネキグサ	準絶滅危惧	希少	準絶滅危惧	県内に広く生育していたが、いずれの地域でも近年激減。	北尾根にわずかに残存。	数十株程度	高(小規模柵が望ましい)
37	モイワラン	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧		県内自生地は限定的。	伊吹山麓で確認されている。	数株	高
38	ヤマサギソウ(含ハシナガヤマサギソウ、マイサギソウ)		希少		県内自生地は限定的。	自生の記録はあるが、個体数が極めて少ないことが予想される。	数株	高
39	ワニグテソウ		絶滅危機増大		県内では伊吹山地のみに自生。	伊吹山地山麓に自生。現在山頂での自生は不明。	数株	高

(2)伊吹山重要植物群落構成種								
NO	種名	環境省RD	滋賀県RD	岐阜県RD	分布限界、自生環境、周辺地域の状況等	山頂エリア・3合目の現況	予想個体数	保護の形態
1	オオバギボウシ						数十株?	小規模柵による保護
2	キンバイソウ(キリガミネキンバイソウ) 含ヤエザキキンバイソウ		絶滅危機増大	情報不足	県内の自生地は伊吹山のみ。	山頂エリアに自生するが、花の咲く個体が減少。	数十株以上	小規模柵による保護
3	シモツケソウ		その他重要種	絶滅危惧Ⅱ類		個体数は非常に多いが花の咲かない個体が多い。	多数	小規模柵による保護
4	フウロソウ類 イブキフウロ、ハクサンフウロ、エゾフウロ、グンナイフウロ		分布上重要等	準絶滅危惧等			多数	小規模柵による保護
5	メタカラコウ		掲載なし				多数	小規模柵による保護
6	ユウスゲ		希少		保護柵内では増加傾向。保護柵外では危機的。	3合目保護柵により守られている。	多数	小規模柵による保護

(3)要注目種 今後の状況変化により重要植物種への検討が必要な種								
NO	種名	環境省RD	滋賀県RD	岐阜県RD	分布限界、自生環境、周辺地域の状況等	山頂エリア・3合目の現況	予想個体数	保護の優先度
1	アズマイチゲ		希少		石灰岩地に多い。	山頂エリアでの確認はない。	不明	
2	アヤマ		その他重要		県内でも自生地は多い	保護柵内では増加傾向。保護柵により守られる。	数十株以上	中(小規模柵が望ましい)
3	イタチササゲ		希少		伊吹以外では不明。	山麓では草刈りによる刈り払いがある。	数十株	中
4	イチョウシダ	準絶滅危惧	絶滅危機増大	絶滅危惧Ⅰ類	鈴鹿山地の石灰岩地に自生。	伊吹山域での自生は限定的。	20~30株	高
5	イブキカモジグサ		分布上重要		エゾカモジグサとの関係性を検討。	3合目から山頂エリアに自生。	数十株以上	?
6	イブキスミレ		分布上重要	絶滅危惧Ⅰ類	全国的にも自生地は限定的。石灰岩地に多い。	伊吹山の自生は全域。	数百個体	中
7	イブキトラノオ		分布上重要		個体数は多い。	全域に自生するが劣化が目立つ。	多数	小
8	イブキトリカブト		掲載なし	絶滅危惧Ⅰ類	近年、シカの食害が目立つ。	食害が増加し、今後の動向を注視。	多数	中
9	イブキハタザオ		掲載なし		山頂エリアに多いが矮性化する。	山頂駐車場周辺から山頂エリアに自生。	多数	小
10	イブキフウロ		その他重要		伊吹山が南西限。	保護柵外ではかない深刻。山頂エリアでは個別保護も必要。	多数	中(小規模柵が望ましい)
11	ウシタキノ		希少		石灰岩地に多い。	北尾根?	?	
12	ウメガサソウ		希少		石灰岩地に多い。	山麓にも自生。	数十株以上	中
13	ウメバチソウ		その他重要		県内の湿地で比較的普通。	伊吹山地の湿潤地とその周辺に自生。	数十株以上	中
14	エゾカワラナデシコ		要注目		2014年に彦根で確認以来伊吹山でも確認。	保護柵内以外では少ない。3合目にも自生。	数百株以上	中
15	エゾノタチツボスミレ		分布上重要		伊吹山周辺のみ自生。山麓の植林地内にも生育。	シカの食害はない。上野登山道に比較的多い。	数百株以上	中
16	エゾハタザオ		分布上重要	情報不足	伊吹山が南限。	数年前まで3合目に自生。	数株程度	高
17	エゾフウロ		その他重要	絶滅危惧Ⅱ類	伊吹山が南限。	広く自生するが、保護柵がなければ深刻な状況。	数十株以上	中
18	エビネ	準絶滅危惧	その他重要		県内に広く自生する。	北尾根に多く、食害はない。	数十株以上	中
19	オオキヌタソウ		分布上重要		近年自生地が減少。	保護柵内に自生。	数株程度	高
20	オオシュロソウ(シュロソウ)		その他重要		県内の自生地は限定的。	シカの食害で、花の咲かない個体が多い。	数十株以上	中
21	オオダイコンソウ		その他重要		滋賀県の自生地(伊吹山、余呉町)が分布の西南限。	森林帯にも自生。	数十株以上	中
22	オオナンバンギセル		希少種	絶滅危惧Ⅱ類	県内での自生地は限定的。保護柵外の調査が必要。	保護柵内に多いが柵外では不明。	数十株~多数	低or中
23	オオバキスミレ		分布上重要		野坂山地、比良山地に多い。	北尾根に自生。山頂エリアは不明。	数十株	
24	オオバギボウシ		掲載なし		近年、シカの食害が目立つ。山頂エリアでは激減。	山頂駐車場周辺に多数自生。ここ以外では少ない。	100株以上	中
25	オキナグサ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類	県内の自生地は不明。	山麓の農家で栽培されているようだが、本来の自生かは不明。	?	高
26	カノコソウ		分布上重要		県内での自生地は限定的。	山頂部の保護柵内に多いが、登山道沿いにも自生。3合目にも自生。	数十株以上	中
27	カラマツソウ		その他重要		保護柵外では花が咲かない個体が多い。	保護柵により健全な個体が維持されている。	多数	中(小規模柵が望ましい)
28	カワミドリ		その他重要		滋賀県各地で減少。笹又に自生。	確実な自生地は笹又。	数株~	中
29	ケンショウマ		希少		分布の西限。ここ数年、北尾根での状況は不明。	北尾根に多い。山頂エリアでの確認はない。	数株	高
30	キセウタ		絶滅危惧		県内の自生地は限定的。	3合目に自生。県内唯一の自生地。	十数株程度	高(保護柵内にある)
31	キバナイカリソウ		分布上重要		県内では伊吹山地と鈴鹿山脈のみに自生。	近年の状況は不明。	?	
32	キバナノアマナ		絶滅危機増大		鈴鹿山地にも自生。	極端な食害はない。	数十株以上	中
33	キバナハタザオ		分布上重要	情報不足	県内唯一の自生地。	3合目の自生不明。	数株	高
34	キンラン		希少		県内に広く自生。	山麓の落葉広葉樹林内に自生。	多数	高

35	ギンラン		希少		県内の自生地は比較的多い。	大きな変動はない	数十株以上	低
36	クガイソウ		分布上重要		個体数は比較的多いが、矮性が目立ち始める。	保護柵がなければ深刻な状況。	数十株～数百株	中(小規模柵が望ましい)
37	クモノシダ		分布上重要		石灰岩上に自生。	駐車場周辺の岩上ものは変化なし。	20～30株	低
38	グンナイフウロ		分布上重要		伊吹山が分布の南限。	保護柵内や駐車場周辺に自生。柵外では激減。花の咲かない個体が多い。	数十株以上	中
39	コイブキアザミ	絶滅危惧Ⅱ類	分布上重要	絶滅危惧Ⅱ類	御池岳にも自生。	山頂エリアに点在するが、減少傾向にある。	数十株以上	低
40	コウボウ		絶滅危機増大		自生地は限定的。シカの食害不明。	山頂エリア、東エリアに自生する。食害の影響は少ない。	数百株	低
41	コオニユリ		掲載なし	準絶滅危惧	繁殖力は高く、保護すれば再生も早い。	花の咲かない個体が多く、保護が必要。	数百株	中(小規模柵が望ましい)
42	コガネネコノメソウ		希少		県内の自生地は伊吹山地、鈴鹿山地のみ。	山頂エリアに自生。	?	高
43	コキンバイ		絶滅危機増大		滋賀県(鈴鹿)が南限。	ササ、樹木の下に自生することが多い。樹木が食害から保護。	50～100株	中
44	コケイラン		その他重要		県内では比較的普通なラン科植物だが、近年減少。	山頂エリアの林床、林縁に自生。	数十株	中
45	コバノミミナグサ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類	個体数は多いが草丈が小さくなる。	今のところ個体数は多いが草丈は小さい。要観察。	多数	低
46	コワニグテソウ		希少		伊吹山での確認記録がある。	花の咲かない個体となりヒメズイとの誤認も考えられる。	不明	高
47	サイハイラン		掲載なし		近年減少傾向にある。	伊吹山地には少ない。	数株	中
48	サルメンエビネ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧		県内全域で減少。シカの食害はない。	最近の確認なし。	?	中
49	サワアザミ		分布上重要		シカの食害により激減。日本海側に多い。	山麓の谷沿いなどに自生。笹又に自生。	数十株以上	中
50	サンカヨウ		分布上重要		県内での自生地は、今津・三重ヶ岳、伊吹山に限定。	森林帯に自生地、森林により食害を免れる。	数十株	中
51	シギンカラマツ		分布上重要		鈴鹿山地にも自生。	近年は状況は不明。花の咲かない個体となっているようだ。	?	
52	シデシヤジン		希少種		滋賀県北部には多いが他では稀。笹又に自生。	ドライブウェイ沿いに自生。笹又に自生。	数株以上	中
53	シロヤシオ		希少		鈴鹿山脈、比良山地、野坂山地にも自生。	北尾根?	?	
54	ステゴビル	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類	県内の自生地は限定的。	自生地では現状維持。草刈りの影響が懸念される。	数十株～	中
55	セイトカタンポポ(イブキタンポポ)		掲載なし		他のタンポポ類との交雑状況の把握が必要。	3合目、山頂に多い。	数十株～	中
56	セツブンソウ		希少		県内にはまとまった自生地がいくつかある。	3合目の保護柵の個体群は安定。柵外での自生は不明。	数十株～多数	中
57	セリモドキ(タニセリモドキ)		その他重要	絶滅危惧Ⅱ類	県内の自生地は伊吹山のみ。	各保護柵内に自生するが、柵外では駐車場周辺以外ほとんどない。	数十株～	中(小規模柵が望ましい)
58	タカトウダイ(含イブキタイゲキ)		分布上重要		県内の自生地は湖東、湖北と限定的。	山頂エリアのものはイブキタイゲキ。2合目あたりはタカトウダイ。	多数	低
59	チョウセンナニワズ		希少		石灰岩地の岩場に自生。鈴鹿山脈にも自生。	山頂駐車場周辺に自生。食害はない。	数株～以上	低
60	ツクバキンモンソウ		分布上重要		ニシキゴロモの変種。	ニシキゴロモとの誤認もあり、要検討。	数株程度	高
61	ツルシロカネソウ		分布上重要		太平洋側に自生する。	山頂にはないが周辺地域に自生。	数十株以上	中
62	トウキ		その他重要		県内で、赤坂山の自生は近年不明。	保護柵や崖地のもの以外は株が衰退。笹又に自生。	数十株以上	中
63	トモエソウ		絶滅危機増大		伊吹山には多いが、県内の他の地域では稀。	山頂エリア以外では減少。上野登山道沿いでは激減。	数十株以上	中
64	ハクサンフウロ		分布上重要		県内唯一の自生地地。	3合目保護柵内では増加傾向。山頂エリアでは保護柵外では激減。	数百株以上	中(小規模柵が望ましい)
65	ヒメフウロ			絶滅危惧Ⅰ類	石灰岩の岩場に多い。	殆ど花の咲かない個体となる。環境さえ整えば、安定した生育を示す。	数百株	小
66	フクジュソウ		希少		県内では、湖東、湖北に自生。	山頂エリアには自生しない。	数十株程度	中
67	ホザキツリガネツツジ		掲載なし	準絶滅危惧	1986年に新種記載。岐阜県でも減少。	滋賀県側の自生不明。	?	?
68	ホソバナアマナ		絶滅危機増大		シカの食害は少ないが、踏みつけが見られる。	個体数は比較的多い。シカの踏みつけが見られる。	数十株以上	中
69	ミツバベンケイソウ		その他重要		保護柵内や駐車場周辺以外では少ない。	保護柵外のものには花が咲かない個体が多い。	数十株～	中
70	ミツモトソウ		希少		シカの食害圧により激減。	ドライブウェイ沿い、山頂保護柵以外での詳細は不明	数十株～	中
71	ミヤマキスミレ		2020年版の選定なし		近畿北部に自生する。	北尾根に自生。国見峠付近。	?	
72	ミヤマコアザミ(ノアザミ、タカサゴアザミ)	準絶滅危惧	分布上重要		増えている可能性もある。	保護柵の中に多数生育。東エリアでは柵外にも生育。	数十株以上	中
73	ヤマガラシ		分布上重要		滋賀県が分布の南限。	保護柵外にも多いが株は小さい。食害を受けても花を咲かせる。	多数	低
74	ヤマシャクヤク	準絶滅危惧	希少	準絶滅危惧Ⅰ類	山頂エリアの森林内に多数自生。石灰岩地にも自生。	山頂部の林床に自生。結実個体も見られる。	数十株～多数	中
75	ヤマゼリ		分布上重要		森林内で確認。結実も見られる。	駐車場周辺、各保護柵に自生。ただ、保護柵がなければかなり深刻。	数十株以上	高
76	ヤマタツナミソウ		希少		自生地は限定的。シカの食害不明。	自生地は限定されるが、保護柵の外にも生育する。	数十株程度	高
77	ヤマブキソウ(含ホソバ、セリバ)		絶滅危機増大		大きな群生地は減少したが、その後個体数は維持?	山頂部、北尾根に自生。ただ、北尾根の状況次第では保護を考える必要あり。	多数	中
78	ヤマラッキョ		その他重要		3合目の草地に自生。	3丁目に自生。保護柵外での状況不明。	数十株以上	低(小規模柵が望ましい)
79	ルリトラノオ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危機増大	情報不足	シカの食害比較的小さい。	保護柵外にも自生するが、徐々に食害の影響が出始めている。	数百株以上	中

(4)情報不足 自生情報が不足し現段階で判断できない種								
NO	種名	環境省RD	滋賀県RD	岐阜県RD	分布限界、自生環境、周辺地域の状況等	山頂エリア・3合目の現況	予想個体数	保護の優先度
1	アカハナワラビ		その他重要		山東町でも確認。	不明		
2	アケボノスミレ		絶滅危惧			不明		
3	イヌノフグリ		希少		全国的に激減。	不明		
4	イヌハギ		絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧		不明		
5	イブキシモソモ		分布上重要		南限の分布。	不明		
6	イワイタチシダ		その他重要		県内の山地に広く自生。	不明		
7	イワウメヅル		要注目			不明		
8	イワガサ		希少		石灰岩地に多い。	不明		
9	イワキンバイ		希少		比良山地、鈴鹿山脈にも自生。	不明		
10	イワシモツケ		希少		石灰岩地、蛇紋岩地限定。	不明		
11	イワトラノオ		希少		県内の自生は少ない。	不明		
12	ウスバサイシン		希少			不明		
13	ウメガサソウ		希少		県内では石灰岩地に多い。伊吹町に自生記録。	不明		
14	ウラジロウコギ		要注目		石灰岩地に多い。	不明		
15	エゾタツナミソウ		要注目			不明		
16	エゾフユノハナワラビ		要注目			不明		
17	オオタマツリスゲ		希少		県内の生育地は限定的。	不明		
18	オオバショリマ		希少			不明		
19	オオバメギ		希少		県内の自生地少ない。	不明		
20	オオヤマサギソウ		絶滅危惧増大			不明		
21	オカオグルマ		希少			不明		
22	オケラ		希少			不明		
23	カタイノデ		その他重要			不明		
24	カラクサシダ		分布上重要			不明		
25	カラスシキミ		希少		滋賀県北部、日本海側に多い。	不明		
26	カワラサイコ		希少		主に河原、琵琶湖岸に自生。	不明		
27	キヨシミウツボ		希少		湖西地域でも確認される。	不明		
28	クマガイソウ		絶滅危惧		県内全域で群生地なくなる。	不明		
29	クリハラン		その他重要		県東部に多い。	不明		
30	ケヤマウツボ		要注目		ブナ科、カバノキ科、ヤナギ科に寄生。	不明		
31	コガネネコノメソウ		希少			不明		
32	コギシギシ		要注目			不明		
33	コンオガマ		希少			不明		
34	ササバギンラン		絶滅危惧		伊吹山地、県内ともに現況は不明。	不明		
35	サナギイチゴ	絶滅危惧Ⅱ類	希少		見落としの可能性があり、詳細調査が必要。	不明		
36	シギンカラマツ		分布上重要			不明		
37	シロヤシオ		希少		鈴鹿山脈、比良山地に多い	不明		
38	ジンバイソウ		その他重要		県内での状況は不明な所が多い。	不明		
39	ゼニバサイシン		絶滅危惧		県内は伊吹山のみに自生。	不明		

40	タキキビ		希少			不明			
41	タキミシダ		絶滅危惧		県内の現状は不明。	不明			
42	タチヒメワラビ		絶滅危惧			不明			
43	ツルタチツボスミレ		分布上重要		比良山地にも生育。	山頂エリアでの自生は不明。森林内の調査が必要。			
44	ツレサギソウ		絶滅危惧		県内では綿向山にも自生。	不明			
45	トウゴクサバノオ		分布上重要		湖北に自生。	不明			
46	トキワトラノオ		要注目			不明			
47	トラノオジソ		要注目			不明			
48	ナガホノナツノハナワラビ		その他重要			不明			
49	ナツエビネ		その他重要			不明			
50	ナベナ		絶滅危機増大		シカの食害を受け、県内全域で激減。	不明			
51	ハコネシダ		希少		石灰岩地に自生。	不明			
52	ハシナガヤマサギソウ		要注目		伊吹山での近年の報告ない。	不明			
53	ハネガヤ		希少		県内唯一の自生地。	不明			
54	ハマハナヤスリ		希少		ヒロハハナヤスリとは生育環境が異なる。	不明			
55	ヒオウギ		その他重要			不明			
56	ヒゴスミレ		希少			不明			
57	ヒゴスミレ		希少		県内全域で減少。	不明			
58	ピッチュウアザミ		2020年版の選定なし		神明水付近での確認がある。伊吹山が東限。	不明			
59	ヒメサジラン		希少			不明			
60	ヒメザゼンソウ		その他重要			不明			
61	ヒメニラ		絶滅危機増大		兵庫県が分布の西限。	不明			
62	ビロードシダ		希少		伊吹山での自生情報がある。	不明			
63	ヒロハヤブソテツ		その他重要			不明			
64	マキエハギ		希少			不明			
65	マツムシソウ		希少			不明			
66	マルバサンキライ		希少			不明			
67	ミチシバ		希少			不明			
68	ミヤコアザミ		絶滅危惧		伊吹山での確認がある。	不明			
69	ミヤマアズラススキ		分布上重要		県内で伊吹山地のみに自生。	不明			
70	ミヤマクマワラビ		希少		県内の自生地は限定的。	不明			
71	ミヤマハンノキ		分布上重要		県北部福井県との県境付近に自生。伊吹山地は不明。	不明			
72	ムカゴソウ		要注目			不明			
73	ムカゴツツリ		要注目			不明			
74	ヤブスゲ		要注目			不明			
75	ヤマジノギク		希少			不明			
76	ヤマジノタムラソウ		分布上重要			不明			
77	ユウシュンラン	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧			不明			
78	ルイヨウショウマ		希少		県内の自生地は少なく、現況不明。	不明			
79	ワチガイソウ		分布上重要		県内の自生地は限定的	不明	数十株程度	高	
(5) 指定除外種 食害の影響が少ない種									
NO	種名	環境省RD	滋賀県RD	岐阜県RD	生育地の状況	現況	予想個体数	保護の優先度	
1	イブキジャコウソウ		希少		シカの食害はないが、個体数の減少が見られる	シカの食害はほぼない。	多数	低	
3	イブキトボシガラ		分布上重要		伊吹山地と鈴鹿山脈のみ	ドライブウエイ沿いのものは要検討	多数	小	
4	イブキトラノオ		分布上重要種		シカの食害は比較的軽微で、種は安定。	山頂部の草原に多い。	多数	低	
5	イブキノエンドウ		要注目		シカの食害？	保護柵内で保護されている。	多数	低	
6	エゾノヒメクラマゴケ		希少		県内での分布は伊吹山のみ	山頂登山道沿いの石灰岩の岩陰に多い。現状変化ない。	数十株以上	中？	
7	オオナンバンギセル		希少種	絶滅危惧Ⅱ類	県内の生育地は限定的	保護柵以外での生育状況不明	多数？	中？	
8	オオヒナノウスツボ		希少		山頂エリアで増加傾向にある。	山頂部の草地に自生。	多数	低	
10	キオン		分布上重要		県内の生育地限定。山頂エリアで増加傾向にある。	山頂部の草地に自生。	多数	低	
11	キバナノレンリソウ		要注目	準絶滅危惧	ヨーロッパ原産の帰化植物	保護柵内で多数生育。	多数	低	
12	クサタチバナ		希少		今の山頂エリアに多いが、かつての規模ではない。	シカの食害はほぼない。	多数	低	
13	クサタチバナ		希少		石灰岩地	伊吹山に限定的	多数	低	
14	ザゼンソウ		分布上重要		ヒメザゼンソウとの区別が必要。	シカの食害なし	数十株～多数	低	
15	シオガマギク		その他重要種		シカの増加で踏まれことがあるが、種は安定。	山頂部の草原に多い。	多数	低	
16	チシマカニツリ		希少		判断に迷う個体もある。北方系	山頂部一帯に自生。	多数	低	
17	ヒメザゼンソウ		その他重要種		シカの食害はない。	林床に自生。	数十株～多数	低	
19	ヒロハテンナンショウ(アシウテンナンショウ)		分布上重要		東エリア。仏炎苞が紫色のものがアシウテンナンショウ。	山頂エリアに自生。	多数	低	
20	ヒロハハナヤスイ		希少	絶滅危惧Ⅱ類	山頂エリアで増加傾向にある。裸地の出現が増加の要因か？	山頂部の草地に自生。	数百株～以上	低	
21	マルバダケブキ		分布上重要		山頂エリアで増加傾向にある。	山頂部の草地に自生。	多数	低	
22	ヤマトグサ		分布上重要		林床、草地ともに生育	森林帯に多い。時に群生する	多数	低	
23	レンゲツツジ		希少		シカの食害はない。	南尾根に多い。	数十株程度	低	